

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490800026		
法人名	株式会社 ウインズ		
事業所名	ウインズの森 角田グループホーム ユニット①		
所在地	宮城県角田市角田字緑町10-1		
自己評価作成日	平成 27 年 10 月 29 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 27 年 11 月 11 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「スペシャルふれあいDAY」と称し、入所者様個別に思いで作りや、要望を叶えるケアを展開しております。 例)温泉への外出、家族様のお墓参り、家族様を呼んでの手料理</p> <p>柔軟な就労受入とサポート</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>角田警察署から少し離れた、住宅・公園等に囲まれた閑静な住宅街に、小綺麗なホームがたたずんでいる。コの字型の2ユニット間は、ウッドデッキで繋がっている。入居者は自由に出入りし、年中行事、お茶のみ、日なたぼっこ等を楽しんでいる。運営推進会議はホールで開催するので、入居者はほぼ全員参加し、顔馴染みとなった区長や民生委員等と世間話をしている。ホームは地区と「災害時援助協定」を結び、相互援助体制を整えている。入居者は、隣接する公園の草取り、花植えに参加したり、近辺の散歩がてらにゴミ拾いを行っている。職員は、入居者の気持ちを大切に、笑顔が出るような要望を叶える介護を実践している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所:ウインズの森 角田グループホーム ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時にスタッフで決めた、理念を掲げどのスタッフも意識してケアにあたっている。	開設時に職員全員で作成した「尊重・共生・笑顔～ずっと地域で～」の理念を継続している。各ユニットでは毎年話し合い、目標を作成し、共に笑顔で過ごせるよう一人ひとりに寄り添ったケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する公園の月1回の美化活動に出来る限り利用者様とスタッフも参加。毎週アニマルセラピーの訪問もあり。災害時の協定を結んでいる。	町内会に加入し、公園への花植え等、交流を深めている。非常災害時にはお互いが協力する体制ができている。週1回の犬と猫のアニマルセラピーは、お互いが徐々に馴染み、家族も一緒に触れ合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、毎月1回内部研修を職員持ち回りで、講師を務めお互いに勉強をしている事を報告。その議題も伝えている。その中で質問等があれば答えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・区長・民生委員・利用者様の方々と2か月に一度開催。GHの報告は写真入りで説明。意見交換し助言を頂いている。	会議は偶数月にホールで開催している。入居者はほぼ全員が参加し、顔馴染みの方と世間話をしている。民生委員から自己有用、達成感について助言を受け、仕事を手伝った方には感謝の言葉を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず市担当の方も出席して頂いている。また、市主催の研修会にも参加をしている。	市から制度改正の説明がある。管理者は角田・丸森地区の管理者研修に参加した。市との連携が良く、外部評価にも職員が同席している。入院している避難者の入居相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外玄関の施錠はしていない。社内研修でも課題にしている。身体拘束ゼロ継続中。	年1回の研修や、月1回のミーティングに職員全員が参加し、勉強会をしている。職員は言葉使いにもお互い注意し合い、「抑制ゼロ」を継続している。散歩したい方には本人が納得するまで一緒に散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて実施。見て見ぬふりをしないよう日頃から意識付けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は一つ一つ読み上げ、都度疑問が無いかな確認しながら進めている。また、改正時にも対面で説明をし理解を頂いた上で書面を残すようにしている。フェイスブックでの写真掲載の可、否の確認をした。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、面会時に相談や要望を聞いている。	家族面談時、入居者の様子を話し、家族がどのような介護を望むか話し合っている。計算問題をさせてとの家族の要望で、職員が3桁の計算問題を作り、一緒に問題を解いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングには、社長・常務も参加し会社の意向が聞けて、またGH側の意見、要望も直接言える場がある。	職員の要望であるDVDプレイヤー、高圧洗浄機等の購入は、ミーティング時、即決されている。意見の言える環境であり、法人の全職員の意見で、夜間勤務体制を、16時間から8時間に変更した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を実施。その中で意見をあれば出来るだけ対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修には積極的に参加するよう努めている。スムーズに送り出せるようなシフトを配慮。OJTの実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の研修会に参加し、事業所間の情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は、ご本人はとて不安でおられると思っている。気持ちをくみ取り、出来るだけ話の中から探り、焦らず関わっていく事でお互いに理解出来れば良いと思う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査の段階から入居前の生活を知り、ご本人の希望は勿論、ご家族様の想いや要望も取り入れながらケアにあたっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用するにあたり、ご本人・御家族様と面談し、必要としているサービスを見極め、家族の同意の上プランを決定している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にも「共存」を掲げており、出来る事、一緒に出来る事は積極的に参加して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の関係が希薄とならないよう、情報提供は勿論、行事等への参加を促している。良い事だけに限らず、認知症の状態なども伝え、現状理解を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様は勿論知人の面会時にも、話がしやすいよう、スタッフは配慮している。その際写真を撮らせて頂き、面会者様にもお渡しし、利用者様の居室にも掲示するようにしている。	職員は知人との面会時に、入居者の様子を観察し、困った表情の時には話にのれるようにサポートしている。入居者が「家さ帰る」と言って居室に入るのは、ホームが馴染みの場所になっているからである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性を把握し、職員が仲介する事で話の輪が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も当事業所を紹介して頂ける様、またご利用頂ける様、「選ばれる事業所」を目指している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「スペシャルふれあいDAY」と称し、マンツーマンでの個別ケアを実施。外食や、温泉等、本人様が望む事、思い出作りを叶えられるよう行っている。	入居者や家族の話等から希望や願いを知る。「昔、つみれ汁好きで食べてた」の言葉で、サプライズで息子夫婦につみれ汁をご馳走し、大変喜ばれた。歌番組が好きな方には繰り返し見られるように録画した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴の情報を基に、関わりの中でその方をきちんと理解出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケアをめざし、利用者様中心の、穏やかに過ごせるようケアにあたっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の把握や、提案も踏まえ、状態を見ながら意欲の向上、または現状が維持できるように努めている。申し送りをしっかり行いケアの統一も図っている。また、状態が変化した時は御家族と面談し意見・希望を確認している。	月1回のモニタリングをし、6ヶ月毎に職員全員で話し合い、計画を見直している。服を洗濯に出さない方の服を、家族の了解を得て夜間回収する事や、意欲向上を図り、家事・掃除・テーブル拭き等を計画に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録表にご本人が話した言葉、行動をありのまま記録に残している。また、関わり方とその反応も記録し、その後に繋げたり、改善のヒントにもなっている。申し送りノートにも記録し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様は勿論、事業所の体制、スタッフにも変化が起きるものと認識し、その時々ニーズや課題を探り、より適切なサービスが行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や近隣のスーパーへの買い物に出かけている。地域の美化活動にも出来るだけ参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を受けている。体調変化時には早急に受診もする。家族様には随時連絡をしている。訪問歯科も実施している。	希望により、入居者全員が協力医をかかりつけ医としている。毎週金曜日、定期的に診察を受けている。入居者が夜間転倒して骨折した時は、救急車を要請し、家族にも連絡し職員が付き添った。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師配置なし。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携している病院と情報の交換に努めている。入院中の対応は御家族様にして頂くが、GH側からも病院へ出向き状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の説明をしている。状態に応じて、ご家族様と面談を行い、実状の説明、ご家族様の意向を伺い、GH側ができる事、出来ない事を改めて説明している。	看取りの経験はないが、職員は対応することを覚悟している。「重度化対策・終末期ケア対応指針」を成文化し、家族に説明し、意向を聞いて同意を得ている。家族は面談で「最期はホームで」と希望しているので、ホームは出来るだけの事はしたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や訓練を重ねたいと思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	月1回避難訓練を実施している。夜間を想定し職員2人でも安全に避難誘導出来る様にしたいと思う。また、繰り返し訓練をする事で利用者様には体で覚えて頂きたいという考えでしている。災害時援助協定を自治体と締結している。	避難訓練(夜間想定含む)を毎月実施している。消防署からの「マニュアルで教えている事は実際とは違う」の指導の基、どの職員も避難誘導が出来るように、毎回想定を変え、必ず夜勤者2人で実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どの利用者様もさんづけでお名前をお呼びしている。また、状況によって声の大きさやトーンを配慮するようにしている。	職員は、入居者を人生の先輩と思い「さん」付けで呼んでいる。失禁した時などは、羞恥心や尊厳に配慮して、何事もないようにトイレに誘導する。トイレの隣が浴室なので、入浴し、さっぱりしてもらう事もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな小さな事でも、職員の押しつけのならないようお伺いをする。出来るだけ答えやすいような言葉を選びお聞きする様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の意思を伝えて下さる方は少ないが、一日の中でメリハリがある様にはしたいと思う。状態を見極め、体が辛そうな時はお部屋で、手持ちぐさのような時はお手伝いをお願いしたり、外気浴や体操を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お手持ちのお洋服の中から、いくつか提案を出す事はある。女性の方には、行事の際お化粧を施している。2か月に一度訪問理容を頼んでいる。それぞれに合ったカットをして頂けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事への意欲につながるような声掛けをしたり、食席の配慮もしている。出来る限り利用者様にも食事作り、片付けの手伝いをして頂いている。行事食や誕生日などはいつもと違う形で提供をしている。メニュー作りでは、食べたい物を聞き取り入れている。	献立は、入居者の食べたい肉・刺身・デザート・柿等希望を聞き、職員が1週間分を作成し本社に送り、確認している。便秘予防に寒天、牛乳、ヤクルト等を使用し、毎食の配膳をメールで会社に報告している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせて1人1人の食事量を調整して、食べやすい様に工夫をしている。ゼリー食等も取り入れ、嚥下への配慮をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方はもちろんだが、自立している方も声掛けをしている。訪問歯科の提携をしているので、必要に応じた治療や指導をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの誘導を行い、排泄の促しをしている。記録の中から排泄のリズムを知る努力をしている。	「生活記録表」で入居者それぞれの排泄パターンを把握して支援をしている。夜間は様子を見て、睡眠を優先している。個々のサインのそわそわ、足を小刻みに揺らす、歩き回る等により、個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事を通し、便秘予防に努めている。食物繊維、水分摂取を促すとともに、適度な運動、トイレでの排泄習慣を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴ができるよう、ある程度予定をたてているが、判断は本人次第である。また、拒否が多い方の時間帯をずらす等いろいろ工夫している。	入浴時間は、午前か午後に個々の希望に応じている。週2回は出来るだけ入浴するようにしている。排泄で汚れた場合はその都度支援している。入浴剤は本人の希望により毎日使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれお好きなように過ごして頂いている。車椅子使用の方のみ、時間を決め臥床して体を休めてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	把握に努めている。飲み忘れ・誤薬が無いよう、薬のセットはスタッフ2名で確認。服用時は利用者の名前と日付を確認。きちんと飲み込んだかの確認までしている。提携する薬局とも情報交換をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	承認欲求が満たされることを意識しながら、本人様に達成感や、自己有用感を感じて頂ける様、敬う気持ちを大切に接している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの買い物に、可能な限り利用者様も一緒に出掛けている。不定期ではあるが、外食行事も行っている。	年5回の外出計画で、花見の高蔵寺や角田の旧家・佐藤家、古川の外食ツアーでの紅葉狩り等を計画している。日常的には、安全面を優先し、近隣公園や周辺の散歩、買物等に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様にはGH側で管理させてもらう旨理解を頂いている。毎月支出入は領収書を付け報告している。ご確認後は受領印を頂戴している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応はしている。年賀状は出来る限りメッセージを手書きで出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に過ごすホールには季節感を出すための工夫をしている。その飾り付けも一緒にやっている。	ホールは明るく広く、温度湿度は職員の体感や入居者の意見でその都度調整している。壁には入居者が作った楓の切紙が貼られ、季節感を出している。ウッドデッキは芋煮会やお茶会、日向ぼっこに使われ、くつろげる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキにはベンチがあり、ホール内の日当たりの良い所にソファを置いたり、思い思いの場所で過ごせるようにしている。表情を見て、独りの時間を過ごしてもらえよう配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていた馴染みの物を持ち込んで頂くようには伝えているが、実際は少ない。ただし、壁には御家族とのお写真などを飾っている。	ドアには写真入りの名札に並んで、不在確認札、避難方法(介助、車椅子等)の絵が表示してある。備え付けのベッドやクローゼットがあり、馴染みの写真や筆筒等が持ち込まれ、居心地良く配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の動線を考慮し、邪魔にならないように気を付けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490800026		
法人名	株式会社 ウインズ		
事業所名	ウインズの森 角田グループホーム	ユニット名	ユニット②
所在地	宮城県角田市角田字緑町10-1		
自己評価作成日	平成 27 年 10 月 29 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

どの利用者様も年を重ね、身体面も変化している。今出来る事を探り、継続して支援する事で筋力の低下を防ぎたいと思う。また、ここで暮らせて良かったとご本人様はもちろん御家族様からも、思ってもらえるような関わりをしていきたいと考えている。その為に信頼されるように普段から、利用者様の表情や行動は把握できるよう見極める事が求められると思う。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 27 年 11 月 11 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

角田警察署から少し離れた、住宅・公園等に囲まれた閑静な住宅街に、小綺麗なホームがたたずんでいる。コの字型の2ユニット間は、ウッドデッキで繋がっている。入居者は自由に出入りし、年中行事、お茶のみ、日なたぼっこ等を楽しんでいる。運営推進会議はホールで開催するので、入居者はほぼ全員参加し、顔馴染みとなった区長や民生委員等と世間話をしている。ホームは地区と「災害時援助協定」を結び、相互援助体制を整えている。入居者は、隣接する公園の草取り、花植えに参加したり、近辺の散歩がてらにゴミ拾いを行っている。職員は、入居者の気持ちを大切に、笑顔が出るような要望を叶える介護を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所:ウインズの森 角田グループホーム ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時にスタッフで決めた、理念を掲げどのスタッフも意識してケアにあたっている。	開設時に職員全員で作成した「尊重・共生・笑顔～ずっと地域で～」の理念を継続している。各ユニットでは毎年話し合い、目標を作成し、共に笑顔で過ごせるよう一人ひとりに寄り添ったケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する公園の月1回の美化活動に出来る限り利用者様とスタッフも参加。毎週アニマルセラピーの訪問もあり。災害時の協定を提携している。	町内会に加入し、公園への花植え等、交流を深めている。非常災害時にはお互いが協力する体制ができている。週1回の犬と猫のアニマルセラピーは、お互いが徐々に馴染み、家族も一緒に触れ合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、毎月1回内部研修を職員持ち回りで、講師を務めお互いに勉強をしている事を報告。その議題も伝えている。その中で質問等があれば答えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・区長・民生委員・利用者様の方々と2か月に一度開催。GHの報告は写真入りで説明。意見交換し助言を頂いている。	会議は偶数月にホールで開催している。入居者はほぼ全員が参加し、顔馴染みの方と世間話をしている。民生委員から自己有用、達成感について助言を受け、仕事を手伝った方には感謝の言葉を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず市担当の方も出席して頂いている。また、市主催の研修会にも参加をしている。	市から制度改正の説明がある。管理者は角田・丸森地区の管理者研修に参加した。市との連携が良く、外部評価にも職員が同席している。入院している避難者の入居相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外玄関の施錠はしていない。社内研修でも課題にしている。	年1回の研修や、月1回のミーティングに職員全員が参加し、勉強会をしている。職員は言葉使いにもお互い注意し合い、「抑制ゼロ」を継続している。散歩したい方には本人が納得するまで一緒に散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で実施。日頃から意識的に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は一つ一つ読み上げ、都度疑問が無いかな確認しながら進めている。また、改正時にも対面で説明をし理解を頂いた上で書面を残すようにしている。フェイスブックでの写真掲載の可、否の確認をした。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、面会時に相談や要望を聞いている。	家族面談時、入居者の様子を話し、家族がどのような介護を望むか話し合っている。計算問題をさせてとの家族の要望で、職員が3桁の計算問題を作り、一緒に問題を解いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングには、社長・常務も参加し会社の意向が聞けて、またGH側の意見、要望も直接言える場がある。	職員の要望であるDVDプレイヤー、高圧洗浄機等の購入は、ミーティング時、即決されている。意見の言える環境であり、法人の全職員の意見で、夜間勤務体制を、16時間から8時間に変更した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を実施。その中で意見をあれば出来るだけ対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・外部研修とも受けられるようシフトを配慮している。また参加後はミーティングの場で報告をして頂く。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の研修会には参加し、可能な範囲で情報交換に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は、ご本人はとて不安でおられると思っている。気持ちをくみ取り、出来るだけ話の中から探り、焦らず関わっていく事でお互いに理解出来れば良いと思う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活を知り、ご本人の希望は勿論、ご家族様の想いや要望も取り入れながらケアにあたっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用するにあたり、ご本人・御家族様と面談し、必要としているサービスを見極め、家族の同意の上プランを決定している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も同じ空間の中で暮らしていると思っている。出来る所は、積極的にお手伝いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時には連絡し、協力をお願いしている。行事へもお誘いし、参加頂けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様は勿論知人の面会時にも、話がしやすいよう、スタッフは配慮している。その際写真を撮らせて頂き、面会者様にもお渡しし、利用者様の居室にも掲示するようにしている。	職員は知人との面会時に、入居者の様子を観察し、困った表情の時には話にのれるようにサポートしている。入居者が「家さ帰る」と言って居室に入るのは、ホームが馴染みの場所になっているからである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性を把握し、職員が仲介する事で話の輪が出来るようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援ができるようになりたいと思う		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の話の中や、ご家族様からの情報の中で、何を望むのかを探り、「ふれあいスペシャルデー」の実行をしている。1対1で話をする事により本音を聞ける事がある。	入居者や家族の話等から希望や願いを知る。「昔、つみれ汁好きで食べてた」の言葉で、サプライズで息子夫婦につみれ汁をご馳走し、大変喜ばれた。歌番組が好きな方には繰り返し見られるように録画した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴の情報を基に、関わりの中でその方をきちんと理解出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフよりのケアにならないよう、その方のリズムを把握し、穏やかに過ごせるようケアにあたっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の把握や、提案も踏まえ、状態を見ながら意欲の向上、または現状が維持できるように努めている。申し送りをしっかり行いケアの統一も図っている。また、状態が変化した時は御家族と面談し意見・希望を確認している。	月1回のモニタリングをし、6ヶ月毎に職員全員で話し合い、計画を見直している。服を洗濯に出さない方の服を、家族の了解を得て夜間回収する事や、意欲向上を図り、家事・掃除・テーブル拭き等を計画に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録表にご本人が話した言葉、行動をありのまま記録に残している。また、関わり方とその反応も記録し、その後に繋げたり、改善のヒントにもなっている。申し送りノートにも記録し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の想いや状態を把握し、ご家族に報告、情報を交換する中からニーズに答えられるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や近隣のスーパーへの買い物に出かけている。地域の美化活動のも出来るだけ参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を提携しており、月2回の診察を受けている。体調の変化があれば、随時相談職員が付添い受診もする。家族には即時連絡をしている。訪問歯科も実施している。6名の方治療、指導して頂いている	希望により、入居者全員が協力医をかかりつけ医としている。毎週金曜日、定期的に診察を受けている。入居者が夜間転倒して骨折した時は、救急車を要請し、家族にも連絡し職員が付き添った。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はおらず、協力医に現在の症状や様子などを伝え、適切な支援を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携している病院と情報の交換に努めている。入院中の対応は御家族様にして頂くが、GH側からも病院へ出向き状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の説明をしている。状態に応じて、ご家族様と面談を行い、実状の説明、ご家族様の意向を伺い、GH側ができる事、出来ない事を改めて説明している。	看取りの経験はないが、職員は対応することを覚悟している。「重度化対策・終末期ケア対応指針」を成文化し、家族に説明し、意向を聞いて同意を得ている。家族は面談で「最期はホームで」と希望しているので、ホームは出来るだけの事はしたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や訓練を重ねたいと思う		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	月1回避難訓練を実施している。夜間を想定し職員2人でも安全に避難誘導出来る様にしたいと思う。また、繰り返し訓練をする事で利用者様には体で覚えて頂きたいという考えでしている。災害時援助協定を自治体と締結している。	避難訓練(夜間想定含む)を毎月実施している。消防署からの「マニュアルで教えている事は実際とは違う」の指導の基、どの職員も避難誘導が出来るように、毎回想定を変え、必ず夜勤者2人で実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どの利用者様もさんづけでお名前をお呼びしている。また、状況によって声の大きさやトーンを配慮するようにしている。	職員は、入居者を人生の先輩と思い「さん」付けで呼んでいる。失禁した時などは、羞恥心や尊厳に配慮して、何事もないようにトイレに誘導する。トイレの隣が浴室なので、入浴し、さっぱりしてもらう事もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな小さな事でも、職員の押しつけのならないようお伺いをする。出来るだけ答えやすいような言葉を選びお聞きする様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の意思を伝えて下さる方は少ないが、一日の中でメリハリがある様にはしたいと思う。状態を見極め、体が辛そうな時はお部屋で、手持ちぐさのような時はお手伝いをお願いしたり、外気浴や体操を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お手持ちのお洋服の中から、いくつか提案を出す事はある。女性の方には、行事の際お化粧を施している。2か月に一度訪問理容を頼んでいる。それぞれに合ったカットをして頂けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事への意欲につながるような声掛けをしたり、食席の配慮もしている。出来る限り利用者様にも食事作り、片付けの手伝いをして頂いている。行事食や誕生日などはいつもと違う形で提供をしている。メニュー作りでは、食べたい物を聞き取り入れている。	献立は、入居者の食べたい肉・刺身・デザート・柿等希望を聞き、職員が1週間分を作成し本社に送り、確認している。便秘予防に寒天、牛乳、ヤクルト等を使用し、毎食の配膳をメールで会社に報告している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせ1人1人の食事量を調整したり、食べやすい様に工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方はもちろんだが、自立している方も声掛けをしている。訪問歯科の提携をしているので、必要に応じた治療や指導をいただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの誘導を行い、排泄の促しをしている。記録の中から排泄のリズムを知る努力をしている	「生活記録表」で入居者それぞれの排泄パターンを把握して支援をしている。夜間は様子を見て、睡眠を優先している。個々のサインのそわそわ、足を小刻みに揺らす、歩き回る等により、個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の中で予防に努めている。また水分の補給も声掛けし最低量の摂取を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴ができるよう、ある程度予定をたてているが、判断は本人次第である。また、拒否が多い方の時間帯をずらす等いろいろ工夫	入浴時間は、午前か午後に個々の希望に応じている。週2回は出来るだけ入浴するようにしている。排泄で汚れた場合はその都度支援している。入浴剤は本人の希望により毎日使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれお好きなように過ごして頂いている。車椅子使用の方のみ、時間を決め臥床して体を休めてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	把握に努めている。飲み忘れ・誤薬が無いよう、薬のセットはスタッフ2名で確認。服用時は利用者の名前と日付を確認。きちんと飲み込んだかの確認までしている。提携する薬局とも情報交換をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできる事をスタッフは把握し、家事をお願いしている。また、散歩や外気浴、体操を毎日必ず取り入れ		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの買い物に、可能な限り利用者様も一緒に出掛けている。不定期ではあるが、外食行事も行っている。	年5回の外出計画で、花見の高蔵寺や角田の旧家・佐藤家、古川の外食ツアーでの紅葉狩り等を計画している。日常的には、安全面を優先し、近隣公園や周辺の散歩、買物等に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様にはGH側で管理させてもらう旨理解を頂いている。毎月支出入は領収書を付け報告している。ご確認後は受領印を頂戴している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応はしている。年賀状は出来る限りメッセージを手書きで出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に過ごすホールには季節感を出すための工夫をしている。その飾り付けも一緒にやっている。	ホールは明るく広く、温度湿度は職員の体感や入居者の意見でその都度調整している。壁には入居者が作った楓の切紙が貼られ、季節感を出している。ウッドデッキは芋煮会やお茶会、日向ぼっこに使われ、くつろげる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキにはベンチがあり、ホール内の日当たりの良い所にソファを置いたり、思い思いの場所で過ごせるようにしている。表情を見て、独りの時間を過ごしてもらえよう配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていた馴染みの物を持ち込んで頂くようには伝えているが、実際は少ない。ただし、壁には御家族とのお写真などを飾っている。	ドアには写真入りの名札に並んで、不在確認札、避難方法(介助、車椅子等)の絵が表示してある。備え付けのベッドやクローゼットがあり、馴染みの写真や筆筒等が持ち込まれ、居心地良く配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の動線を考慮し、邪魔にならないように気を付けている。		